



Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

3月2日：

無線通信の将来に関するITU会合

世界無線通信会議2007に向けた準備会合

ITU meeting focuses on future of radiocommunication

Preparatory meeting paves the way for 2007 World

Radiocommunication Conference

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/04.html)

2007年10月22日～11月16日にジュネーブで開催が予定されている世界通信会議（WRC）に向けた準備会合（CPM-07）が2007年2月19日～3月2日ジュネーブで開かれ、100か国以上から約1,100人が参加して、WRCでの審議のたたき台となるレポートを採択した。

WRCは、無線周波数帯や衛星軌道の使用に関する国際条約である無線通信規則の見直しと改正を行う場であり、周波数帯の効率的な利用に向けた見直しや配分が検討されている。WRC-07の準備会合であるCPM-07では、航空用テレコマンド及びテレメトリシステム、移動体通信、海上における遭難及び安全、デジタル放送、気象衛星、自然災害の予知・探知など幅広い周波数関連事項について討議が行われ、開発途上国の特異性にも配慮した地上業務と衛星業務の在り方も考慮した上で、第3世代携帯電話の今後の展開に必要な追加周波数帯について合意が得られた。また、9000-9200MHzと9300-9500MHzにおける地球探査業務の一次分配の技術的課題、共用の条件についても合意された。

3月12日：

オンラインIDについての作業は重要なセキュリティ問題を解決

Online identity work will solve key security issues

FG-IdMはID管理にグローバルな調和をもたらす

ITU group will bring global harmony to identity management

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_release/2007/NP03.html)

複数のユーザー名やパスワードの使用は、ハッキング、IDの盗難、その他のサイバー犯罪の温床になり、およそ数十億ドルの重大な経済的損失を引き起こしている。この問題に取り

組むITUのID管理（IdM）に関する計画は、技術的でプラットフォームインデペンデントな解決を提供する準備がされている。

世界のIdMのキープレーヤーは、IdMのグローバルな調和を目指し歩み始めた。世界各地から開発者、ソフトベンダー、標準化フォーラム、メーカー、通信、ソリューションプロバイダや学術関係者が、知識を共有し自分達のID管理への努力を調整するために、ITU Focus Group on Identity Management（FG-IdM）に集まった。その目標は、それぞれのIdMソリューションが発展し続けるよう異なったIdMソリューション同士が通信できる開かれたメカニズムを提供することでソリューション間の相互運用性をもたらすことである。

そのような信頼できるシステムはこれまでのところ存在していない。さらに既存のIdMソリューションの相互運用がサイバーセキュリティ、スパムの減少とサービス間のシームレスでノーマディックなローミングと同じようにオン・ライン・サービスのユーザーが求める一層の信頼性という利益をもたらすということで専門家達の意見は一致している。

FG-IdM議長でノーテル標準化顧問のAbbie Barbirは、「私たちの主な焦点は、テレコミュニケーションとIdMコミュニティーの共通のゴールをいかに達成するかである」と述べた。

IdMは、個人情報のプライバシーを維持しつつ複数のユーザー名やそれぞれのサービスで使われるパスワードの必要性を減らすことを約束している。

(FG-IdMの第1回会合は、2月13～16日、ジュネーブのITU-T本部で開催された。その会合報告が本号の21～23頁に掲載されている)

E-flash

3月12日：

e-flash Issue No.30 (2007年2月)

(出展：<http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/030-feb07.html>)

・IPTV、構成及び要求条件が前進

Key architecture and requirements documents for IPTV progressed

IPネットワークを使って映像の広範囲な配信を容易にするIPTVの標準化作業が、一歩前進した。本年1月に開催されたITU-T IPTVフォーカスグループ会合において、その構成及び要求条件について検討されたもので、IPTVの標準化作業において基礎となる重要な領域である。これらを固めること



で、今後の標準化作業が多いに進展しやすくなる。同フォーカスグループでは、IPTVは、その標準化によって世界市場への導入を加速するという全体的な合意がなされた。

・ **IPTVフォーカスグループの副議長、ロンドンで講演**
IPTV Vice-Chair to present at London event

ITU-T IPTVフォーカスグループの副議長、サイモン・ジョーンズ氏は、3月5日から7日にロンドンのオリンピックで開催されるIPTV ワールド・フォーラムでITU-TのIPTV標準化活動の重要性について講演する。本フォーラムは、世界の30以上の通信事業者及びISPが参加し、IPTVサービスについてディスカッションされる参加自由なイベントで、ジョーンズ氏はテクニカル展示ゾーンにおいて講演することとなっている。

・ **自動車のネットワーク化：ジュネーブ・モーターショー**
Fully Networked Car : Register now

3月7日から10日までジュネーブにおいて、ジュネーブ・モーターショーが開催される。ここでは、現在、急速に市場を拡大している自動車のICT化について概観することができる。また、ワークショップは、ICT及び自動車関連の大企業からの講演者が名を連ねている。同モーターショーは、現在、登録受付中である。

・ **SG-12の課題にIPTVの品質を追加**
Revised workplan for Study Group 12 adds IPTV

1月にジュネーブで開催されたSG-12会合において、QoE (Quality of Experience) の定義が合意された。また、SG12の作業計画が改訂され、IPTVの品質 (QoE 及びQoS : Quality of Service) が追加されることとなった。

・ **自動車コミュニケーション・フォーカスグループ会合に自動車業界からも参加**
Focus Group sees motor industry participation and standards progress

本年1月にジュネーブにおいて、第1回自動車コミュニケーション・フォーカスグループ会合が開催された。同会合には、自動車業界からの参加もあり、ITU-Tのメンバーと合同で、自動車のコミュニケーションを強化するための仕様について検討された。ドイツ自動車工業会の開発した仕様を参考に、現在SG-12で検討中の勧告案 P.Carhftの改訂について審議された。

・ **災害救済時の国連用専用ナンバー**
Number recommended for UN use

SG-2は、災害救済時の国連用の国際ダイヤルを888とする

提案を行った。これは、通信設備が使用不能の状況の中、国連チームがいち早く通信の疎通ができるようにするものである。

・ **チャイルド・ヘルプライン継続**

It's good to talk : Child helpline discussions continue

SG-2は、2月の会合で、チャイルド・ヘルプラインの検討を継続することとした。チャイルド・ヘルプライン・インターナショナルは、若者や子供たちのための世界的な電話によるヘルプライン網であり、SG-2はその国際番号の付与等について検討している。

・ **事業者規模イーサネットに関するITU/IEEEワークショップ**
Joint ITU-T/IEEE Workshop on carrier-class Ethernet

ITU及びIEEEは、5月31日から6月1日まで、事業者規模のイーサネットについてのワークショップを合同で開催する。ITU及びIEEEは、一企業の技術として発展してきたイーサネットを事業者サービスにするための様々な活動を行ってきたが、本ワークショップでは、今後の両組織の共同活動について焦点が当てられる。

・ **テレビ電話の評価ツール承認**

Videophone performance measurement tool approved

SG12は、テレビ電話の画像効果や音声品質について、そのアプリケーションの性能評価ツールに関する新勧告を承認した。この勧告には、専用テレビ電話端末、デスクトップPC、ラップトップPC、PDA及び携帯電話用のPoint-to-Pointの双方向テレビ電話アプリケーションについて記述されている。

・ **高レイヤープロトコルの性能評価**

Performance measurement for high layer protocols

SG-12は、FTPやHTTPなどの高レイヤープロトコルの性能評価に一貫性を持たせる新勧告に合意した。本勧告ITU-T Y.1562により、サービスプロバイダはIPサービスの計画、開発、調査が、機器製造業者は機器設計に必要な性能情報の取得が、また、エンドユーザーは高レイヤープロトコルサービスの性能の評価が可能となる。

・ **ヘッドセットの音質改善の新勧告**

New Recommendation will give improved audio for headsets

1月のSG-12会合において、勧告P.313が改訂された。本勧告は、各機器間の音声レベルを調和させ、品質を確保するためのもので、ヘッドセットとハンズフリー端末のための伝送性能を考慮して修正された。